

# 朝倉工業団地遺跡群No.4

株式会社ヤマト第3工場建設に伴う  
埋蔵文化発掘調査報告書

2013.3

前橋市教育委員会  
株式会社ヤマト  
山下工業株式会社

# 朝倉工業団地遺跡群No.4

株式会社ヤマト第3工場建設に伴う  
埋蔵文化発掘調査報告書

2013.3

前橋市教育委員会  
株式会社ヤマト  
山下工業株式会社

## 例　　言

- 1 本書は、株式会社ヤマト第3工場建設に伴って実施した朝倉工業団地遺跡群No.4の埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 調査は、前橋市教育委員会の指導のもとに委託者、株式会社ヤマトの委託を受け、山下工業株式会社が実施した。調査担当者は青木利文（山下工業株式会社）である。
- 3 発掘調査・整理作業の期間は、平成25年1月25日～25年3月22日の期間で実施した。
- 4 遺跡の所在地は前橋市下佐島町2-3、3-1、3-7、3-8、4-2、5-2、6、7-1、7-3、8-1、9-1、9-2、11-1、11-2、12-1、13-1、14-1、15-1、16-1、19-4、21-1、22-1、22-2、23、24-1、24-2、26-1、26-2、27-2、27-4、27-5、28-4、28-5、33-2、216、201-1
- 5 本遺跡の遺跡番号は00805、略称は24G77
- 6 本書の編集は青木が行った。本文の執筆については、Iを福田貫之（前橋市教育委員会）、Vを大谷正芳（山下工業株式会社）、その他を青木が行った。
- 7 調査に関わる資料は、一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。
- 8 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下の通りである。（五十音順、敬称略）  
〔発掘調査〕 阿久津滋 大谷正芳 白石敬一 高橋富美男 滝原忠男 曲澤年雄  
〔整理作業〕 大谷正芳 野村満
- 9 発掘調査の実施から報告書刊行に至る過程で、下記の機関・諸氏の指導・ご協力を賜った。記して感謝を申し上げる次第である。（敬称省略、順不同）  
株式会社ヤマト 田中隆明 山際哲章 櫻井和哉 井上 太 日沖剛史 和久拓照 小出宅磨 中島直樹

## 凡　　例

- 1 採図における座標値には世界測地系（国家座標IX系）を使用した。方位記号はは座標北を示す。
- 2 等高線や遺構断面図における水準値は、海拔高を示す（単位：m）。
- 3 本書の掲載の遺構図の縮尺表示として、各採図中にスケールを付した。
- 4 グリッドは、原点（X=39,000・Y= - 66,900）より西から東へX0、X1…、北から南へY0、Y1…と付した。
- 5 本調査における遺構断面図に示した色調は「新版標準土色帖」（農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所監修）を使用した。
- 6 本書で用いたテフラの呼称は、天明3年（1783）に浅間山より噴出したテフラをAs-A、天仁元年（1108）に浅間山より噴出したテフラをAs-B、と6世紀初頭に榛名山より噴出したテフラ（Hr-FA）と6世紀中葉に榛名山より噴出したテフラ（Hr-FP）が混在して確認できるものをHr-FA・FP、3世紀末～4世紀初頭に浅間山より噴出したテフラをAs-Cとした。
- 7 本書掲載の第1図は国土交通省国土地理院発行の1/200,000「長野」・「宇都宮」、第2図は同院発行1/25,000地勢図「前橋」「高崎」、第3図は「前橋市都市計画図」、1/2,500をそれぞれ、一部改変引用した。
- 8 表紙には、「昭和61年航空写真集前橋全域」の空中写真を使用した。
- 9 遺構略称は、満…Wとした。
- 10 履序は「朝倉工業団地遺跡群」（2012）に準拠した。
- 11 今回の調査面積は小規模の為、水田計測表は作成しなかった。

## 目 次

例言

凡例

目次

図表目次

写真図版目次

I 調査に至る経緯	1	V 検出された遺構	6
II 地理的・歴史的環境	1	1 遺構の概要	6
1 地理的環境	1	2 水田跡	6
2 歴史的環境	2	3 溝	6
III 調査の方法と経過	5	4 その他の遺構	8
1 調査の方法	5	VI まとめ	11
2 調査の経過	5	写真図版	
IV 基本層序	5	抄 錄	

## 挿図目次

第1図 遺跡の位置	1	第5図 遺跡全体図	9
第2図 周辺の遺跡	3	第6図 As-B 下水田跡、溝、窪み遺構	10
第3図 調査区位置図と周辺遺跡配置図	4	第7図 近隣調査区との検討図	11
第4図 基本層序	5		

## 表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧表	2
-------------	---

## 写真図版目次

P L.1 調査区遠景(南西から)	P L.3 W-3・W-4号溝セクション(東から)
調査区全景(東から)	W-4号溝全景(南から)
P L.2 基本層序	W-4号溝セクション(南から)
畦畔全景(南から)	窪み遺構・W-5号溝全景(南から)
畦畔1全景(南から)	W-6・W-7号溝全景(東から)
東壁セクション水田部(西から)	W-6・W-7号溝セクション(東から)
W-1号溝全景(東から)	W-6号溝セクション(西から)
W-1号溝セクション(西から)	W-7号溝セクション(西から)
W-2・W-3号溝全景(東から)	
W-2・W-3号溝セクション(西から)	

## I 調査に至る経緯

朝倉工業団地は平成 23 年 1 月の試掘調査により遺跡地であることが確認されている。その後、道路箇所については記録保存を目的とした発掘調査を実施し（朝倉工業団地遺跡群）、各々の区画内については進出する各社と協議を行ない現状保存が不可能な箇所については発掘調査を行ない記録保存の措置を執ることとなった。

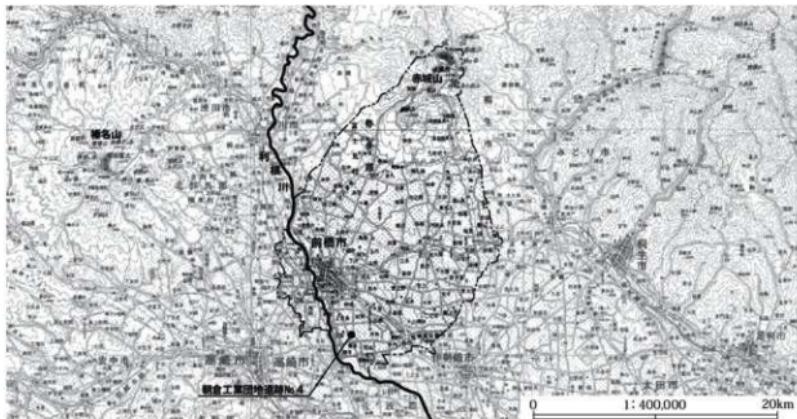
平成 24 年 4 月 16 日、株式会社ヤマトより埋蔵文化財の取り扱いについて問合せがあった。以降、調査期間や調査の方法について数回に亘り協議を行なった。その結果、現状保存が不可能な箇所については発掘調査を行ない記録保存の措置を執ることで合意を得た。発掘調査については、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、民間調査組織が行なうこととなり、平成 25 年 1 月 4 日付けて株式会社ヤマト、民間調査組織である山下工業株式会社、前橋市教育委員会との間で発掘調査に関する協定書が締結され、同年 1 月 25 日から現地調査が開始された。

## II 地理的・歴史的環境

### 1 地理的環境

本遺跡は前橋市南部に位置し、地形的には前橋台地上に立地している。前橋台地は利根川が赤城山、榛名山を抜け、関東平野に流れ出す位置にあり、緩やかな扇状地性の台地である。この台地は約 2 万年前の浅間山噴火によってもたらされた、大規模山体崩壊起源堆積物（前橋泥流堆積物）からなっている。

台地上には現在の河川や旧河川の影響により、北西から南東に沿った自然堤防と後背湿地が形成されている。現河川としては調査区の約 100m 西には端気川があり、約 1.8km 西には利根川が流れている。調査区の 3km 東は台地の東端で崖となり、下面是広瀬川低地帯となっている。中世以前の利根川はこの広瀬川低地帯を流れていたと考えられるが、応永年間に変流し、現在の位置に定まったとされる。



第 1 図 遺跡の位置

## 2 歴史的環境

朝倉工業団地遺跡群No.4の周辺遺跡としては、縄文時代の草創期から確認されている。徳丸仲田遺跡（59）では草創期の隆起線文土器などが確認されているが、これに続く縄文時代の遺跡は少ない。さらに弥生時代に至っても同じ状況が続き、この間のまとまった活動の痕跡は希薄である。

古墳時代になると状況は一変し、遺跡数は飛躍的に増加する。広瀬川低地帯に沿う台地東端部の自然堤防上には広瀬・朝倉古墳群が形成される。この古墳群は古墳時代前期から後期に至る、約150基の古墳からなる県内有数の古墳群である。前期では前方後方墳の八幡山古墳（D）、三角縁神獣鏡を出土した天神山古墳（E）、後期には金冠が出土した金冠塚古墳などがある。古墳群の西には微高地と後背湿地からなる地形が広がり、おおよそ微高地には集落、後背湿地は生産地となり、古墳群の基盤をなしたと考えられる。前期の集落では徳丸仲田遺跡（59）や、横手湯田遺跡（38）などがあり、後期では当遺跡に近い下佐島遺跡（26）、川曲遺跡（27）、朝倉工業団地遺跡群（3）などがある。一方、生産地としてはAs-C 軽石やHr-FA、Hr-FP 火山灰や洪水層を手がかりとして、さまざまな時期の水田面が確認されている。朝倉工業団地遺跡群（3・2）ではAs-C 混土上層水田、Hr-FA・FP 泥流下層水田が確認されている。

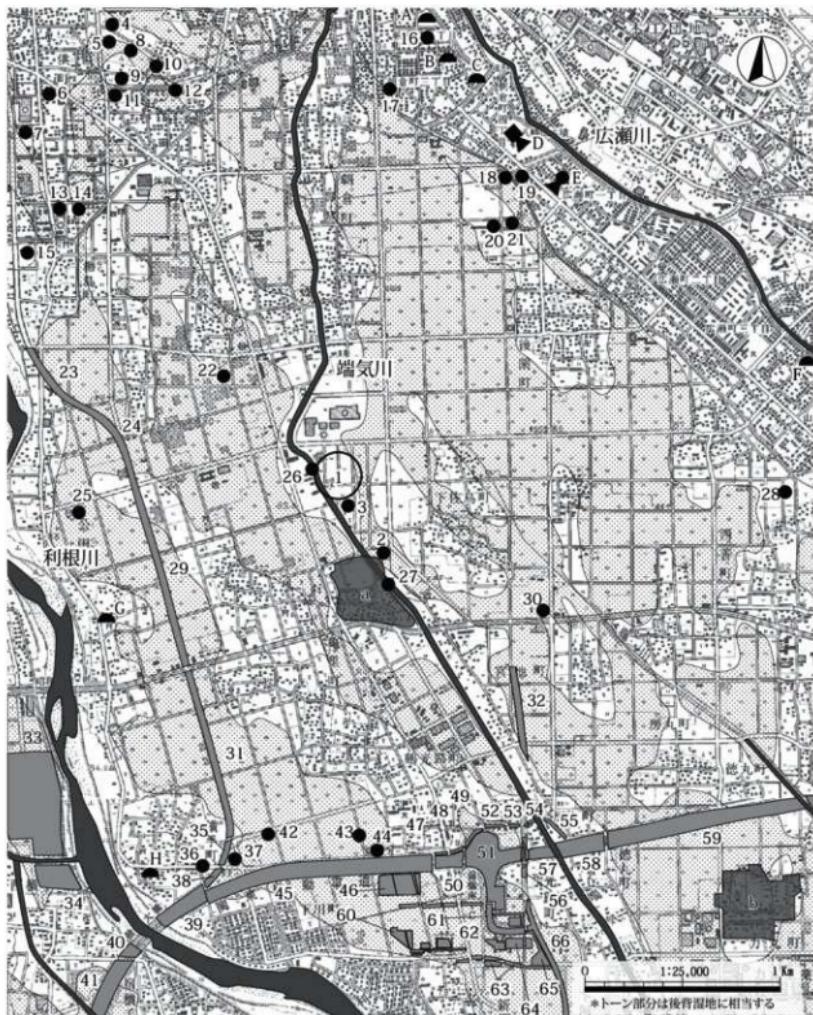
奈良・平安時代においても集落は微高地に立地する一方、生産域は大きく拡大する。この時期の水田は一町四方の方格となる条理地割が採用されている。天仁元年（1108）に噴火した浅間山のAs-Bで覆われた水田は本遺跡を含めた周辺で、ほぼ全域にわたって確認されている。南部拠点地区遺跡群No.4（46）や西田Ⅲ遺跡（51）などの大規模な遺跡では当時の条理地割が確認できるとともに、戦後の圃場整備以前は条理地割の名残が顕著であったことが確認できる。

中世・近世には微高地に環濠併用集落が確認できる。室町時代や戦国時代にはこれら環濠構造が発展したと考えられる、宿阿内城（a）や力丸城（b）、などが城郭化し、点在している。近世から近現代に至っても、後背湿地は生産域として利用され、奈良・平安時代の地割りを残していたが、近年の圃場整備、道路、宅地、商業施設などにより当時の姿はほとんど失われている。

第1表 周辺の遺跡一覧表

遺跡の種別・遺跡表示番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	
縄文時代																													○					
弥生時代																																		
古墳時代																																		
A-s-C 軽土層																																		
A-s-C 軽土層上																																		
H-r-FA層下																																		
H-r-FA洪流水層下																																		
H-r-PP洪流水層下																																		
H-r-PP泥流層下																																		
古墳時代の窓穴住居跡																																		
窓穴・安堵時の水田跡																																		
金良・平安時代の窓穴住居跡																																		
中・近世 A-s-B層																																		
の水田跡																																		
中・近世 開拓																																		
その他の遺構・墓																																		

遺跡の種別・遺跡表示番号	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	
縄文時代																																		
弥生時代																																		
古墳時代																																		
A-s-C 軽土層																																		
A-s-C 軽土層上																																		
H-r-FA層下																																		
H-r-FA洪流水層下																																		
H-r-PP洪流水層下																																		
H-r-PP泥流層下																																		
古墳時代の窓穴住居跡																																		
窓穴・安堵時の水田跡																																		
金良・平安時代の窓穴住居跡																																		
中・近世 A-s-B層																																		
の水田跡																																		
中・近世 開拓																																		
その他の遺構・墓																																		



1 朝倉工業団地遺跡群	4 12 六供遺跡群	23 横手川岸(事業団)	34 西横手遺跡群 II	45 横手湯田・同II~IV	56 西田・西田IV	A 朝倉2号墳
2 朝倉工業団地遺跡群	3 13 南京安寺	24 公田東(事業団)	35 横手宮田	46 南丸点地区遺跡群No.4	57 鶴光路櫻橋	B 朝倉1号墳
3 朝倉工業団地遺跡群	14 東京安寺	25 公田東(調査会)	36 井戸南	47 村中II	58 徳丸高塚・同II	C 朝倉3号墳
4 六供下京安寺	15 篠島川端II	26 下佐島	37 横手宮田II	48 西田V	59 徳丸仲田・同II~IV	D 八幡山古墳
5 六供下笠木V	16 長山	27 川曲	38 横手早稻田	49 西田III	60 南丸点地区遺跡群No.3	E 天神山古墳
6 六供下京安寺	17 鎮守廻り	28 西善駿治屋	39 横手南川端	50 村中	61 下阿内寺町畠	F 亀塚山古墳
7 中大門	18 後安団地	29 公田池尻	40 西横手遺跡群	51 西田	62 南丸点地区遺跡群No.6	G 下川添3号墳
8 六供下笠木II	19 坊山	30 東田	41 宿横手三波川	52 西田II	63 南丸点地区遺跡群No.1	H 清間神社古墳
9 六供下笠木III	20 後関	31 亀里平塚	42 亀里越前・同II	53 西田IV	64 南丸点地区遺跡群No.5	a 筥阿内城
10 六供下笠木	21 後関II	32 宮地中田	43 亀里油面II	54 鶴光路櫻橋II	65 南丸点地区遺跡群No.2	b 力丸城
11 六供下笠木IV	22 上佐庭中前原・同II	33 西横手遺跡群I	44 鶴光路櫻引	55 徳丸高塚II・同IV	66 下阿内前田	

第2図 周辺の遺跡



第3図 調査区位置図と周辺遺跡配置図

### III 調査の方法と経過

#### 1 調査の方法

今回の発掘調査は工場建設に伴う、新施設の一部に該当する、174m<sup>2</sup>を調査対象とした。予想される遺構はすでに前橋教育委員会が実施した試掘調査の結果により、As-B 下水田が検出されており、今回はこの水田の記録保存である。

今回調査対象とされる水田面は As-B に覆われており、現地表から As-B を確認した段階または、これに相当する高さまでの約 30cm をバックホーにより掘削を行った。機械の表土掘削後は人力により、ジョレンや移植ゴテを用い水田に伴う畦畔と As-B 降下以降の溝やその他の遺構の確認を行った。遺構は溝が主で移植ゴテ、ジョレン、スコップを用い掘削を行った。溝は重複があり、平面および断面を観察し、新旧の把握につとめ記録を行った。遺構平面図はトータルステーションと電子平板を用い作成し、断面は手実測により作成した。遺構写真は 35mm モノクロ・カラーリバーサル・デジタルカメラ（1.200 万画素相当）を使用し、土層断面、遺構全景などを撮影した。遺構掘削完了後には高所作業車による調査区の全景写真撮影を行った。

#### 2 調査の経過

平成 25 年

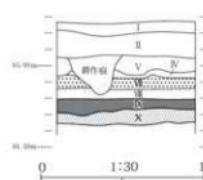
- 1月 23 日 機材の搬入。  
1月 25 日 重機による表土掘削。  
1月 28 日 人力による調査区整備及び遺構確認作業。溝遺構掘削。  
1月 30 日 溝遺構掘削完了。水田面 As-B の除去。  
1月 31 日 溝遺構全景撮影、遺跡の全景撮影。  
2月 1 日 遺構平面測量、セクション図記録。撤収作業  
2月 3 日 重機による埋め戻し完了

### IV 基本層序

基本層所は朝倉工業団地遺跡群（No.1）に準拠し、当調査区でもおおよそ対比が可能であった。ただし、Ⅲ層については調査区内で確認したもの、基本層部においては確認できなかった。

#### 基本層序

- I 現表土。As-A ( $\phi 0.3\text{mm} \sim 0.5\text{mm}$ ) が混入。As-B ( $\phi 0.1\text{mm} \sim 0.2\text{mm}$ ) が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。  
II As-A が混入。As-B も少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。  
III As-A 及び As-B が混入。しまり、粘性とも普通（当断面図では確認できない）。  
IV As-B 混土。鉄分の沈着が顕著。しまり、粘性とも普通。  
V As-B 混土。多量の As-B が混入。鉄分の沈着が一部で認められる。しまり、粘性とも普通。  
VI As-B 混土。As-B および、黒褐色粘質土が中量、灰黃褐色土が少量混入。しまり、粘性とも普通。  
VII As-B 一次堆積層。しまり、粘性とも極めて弱い。  
VIII Hr-FA・FP ブロック少量混入。しまりは普通、粘性は強い。  
IX Hr-FA・FP 混水層。多量のブロックを含む。しまりは普通、粘性は強い。  
X As-C 混土。しまりは普通、粘性は強い。



第 4 図 基本層序

## V 検出された遺構

### 1 遺跡の概要

朝倉工業団地No.4 遺跡の調査では、天仁元年（1108）に噴火した As-B 降下以前の水田跡、および As-B 降下以降の As-B 混土を覆土とする溝遺構が検出された。

As-B 下水田は、近現代の水路や耕作機械による痕跡または、As-B 降下後に掘削された溝などにより切られているが、ほぼ前面にわたって水田跡を検出することができた。特に As-B（VII層）が良好に残った箇所では畦畔が 3 条確認でき 3 区画の水田面を検出することができた。

溝は W-1 ~ W-7 号溝まで 7 条が検出されている。これらの多くは As-B 混土を主体とする土で埋没しているため、水田跡とは時期差があるものと捉えられる。

### 2 水田跡

As-B 下水田（第 5・6 図、PL. 1・2）

**位置：**調査区のほぼ全面で検出された。**重複：**W-1 ~ W-7 号溝に切られている。**残存状況：**Y-69 ~ 70 のグリッドライン間では As-B の一次堆積層が水田面を厚く覆っていたため、残存状況が良好に確認できた。ただし、調査区南の W-1 号溝周辺 2m 程度の範囲と調査区北の W-2 号溝周辺 2m 程度の範囲では残存状況は不良で、水田面（VII 層）直上が As-B 混土（V' 層）となっており、本来ある As-B は水田面の起伏底部で部分的に確認できる程度であった。**地形：**西から東へ緩傾斜する。南北軸の畦畔 1 を境とし約 3 センチ程度東の水田面が低い。**区画：**調査で確認できたのは 3 区画である。なお Y-70 のグリッドライン以南では水田面の残存状況が不良であり、畦畔 1 がさらに南に延びていた可能性がある。**水口：**畦畔が溝や擾乱で切られ検出できなかった。**水田面の状態：**浅い凸凹が見られる。**遺物：**土師器の小片が 1 点出土しているが、図化には至らなかった。

**畦畔 1：**南北に走行する。擾乱により一部が壊されているが、As-B の一次堆積層に覆われた部分は良好に残っていた。ただし、調査区南 W-1 号溝周辺と調査区北の W-2 号溝周辺の水田面の残存状況は不良であったため、南北への延長は確認できなかった。

**畦畔 2：**東西に走行する。畦畔として確認できたが残存状況が不良で、わずかに高まりを残すのみである。

**畦畔 3：**畦畔 1 から東に延びる畦畔と想定した。試掘トレンチによって壊されているため、畦畔として確認できたのは、極わずかな範囲である。畦畔 1 に付随する突起であった可能性もあるが、今回は畦畔 3 とした。

### 3 溝

W-1 号溝（第 5・6 図、PL. 2）

**位置：**調査区南部で一部が検出された。**重複：**W-4 号溝を切っている。**形態：**東西方向に走行している。なお南の立ち上がりは調査区外となるため確認できない。断面形は浅い皿状を呈する。**埋没状態：**As-B を含む黒色土により埋没している。**計測値：**主軸方位 N-86°-E、検出長 8.92m、検出幅 2.24m（最大幅は調査区外となるため、確認値とする。）、確認面からの深さ 0.26m。**遺物：**土師器小片 2 点が出土したが図化には至らなかった。

**時期：**埋没状態から As-B 降下以降と推測される。

#### **W-2号溝（第5・6図、PL. 2）**

**位置：**調査区北部で一部が検出された。**重複：**W-4、3号溝を切っている。W-3号溝とはほぼ重走する。**形態：**東西方向に走行している。なお北の立ち上がりは調査区外となるため確認できない。断面形は浅い皿状を呈する。

**埋没状態：**As-Bを含む黒色土により埋没している。**計測値：**主軸方位N-84°-E、検出長11.82m、検出幅2.44m（最大幅は調査区外となるため、確認値とする）、確認面からの深さ0.20m。**遺物：**土師器小片1点が出土しているが図化には至らなかった。**時期：**埋没状態からAs-B降下以降である。

#### **W-3号溝（第5・6図、PL. 2・3）**

**位置：**調査区北部で一部が検出された。**重複：**W-2号溝に切られ、W-4号溝を切っている。W-2号溝とは、ほぼ重走する。**形態：**東西方向に走行し、断面形は浅いU字状を呈する。**埋没状態：**As-Bを含む黒色土により埋没している。**計測値：**主軸方位N-86°-E、検出長11.82m、検出幅0.26m、確認面からの深さ0.17m。**遺物：**出土なし。**時期：**埋没状態からAs-B降下以降である。

#### **W-4号溝（第5・6図、PL. 3）**

**位置：**調査区東部で一部が検出された。**重複：**W-1、2、3、6、7号溝に切られている。本調査区内で最も古い溝である。**形態：**南北方向に走行し、断面形は逆台形状を呈する。**埋没状態：**As-Bを含む灰黄褐色土、および黒褐色土により埋没している。**計測値：**主軸方位N-4°-W、検出長10.66m、検出幅0.22m、確認面からの深さ0.28m。**遺物：**須恵器小片1点が確認されているが図化には至らなかった。**時期：**埋没状態からAs-B降下以降である。

#### **W-5号溝（第5・6図、PL. 3）**

**位置：**調査区中央部西で検出された。**重複：**W-6、7号溝と重複しているが新旧は確認できなかった。**形態：**南北方向に走行し、断面形は浅い皿状を呈する。**埋没状態：**セクションF-F'ではAs-Bの一次堆積層が確認されたが、セクションG-G'では、しまりの強いAs-B混土を主体とする覆土により埋没している。覆土の違いから別の遺構の可能性も考えられたが、顕著な切り合いは確認できず、遺構プランも連続性があることから同一遺構内の覆土とした。**遺物：**出土なし。**時期：**覆土に一次堆積のAs-Bが確認できるためAs-B降下以前に形成された遺構と考えられるが、セクションG-G'ではAs-B混土が確認されている。双方のセクションで確認した覆土は周囲のⅧ層直上の堆積層に近く、上層からの影響による沈下の可能性も考えられる。なお、W-5号溝上層部周辺は造成以前の農道部にあたり、ワダチなどの可能性も考えられる。

#### **W-6号溝（第5・6図、PL. 3）**

**位置：**調査区中央部で一部が検出された。**重複：**W-4号溝を切っている。西壁のセクションJ-J'ではW-7号溝に切られている。なお、W-5号溝との新旧は不明である。**形態：**東西方向に走行し、断面形は浅いU字状を呈する。**埋没状態：**As-Bを含む灰黄褐色土により埋没している。**計測値：**主軸方位N-89°-E、検出長11.72m、検出幅0.48m、確認面からの深さ0.18m。**遺物：**土師器小片1点と須恵器小片1点が確認されているが図化には至らなかった。**時期：**埋没状態からAs-B降下以降である。

#### **W-7号溝（第5・6図、PL. 3）**

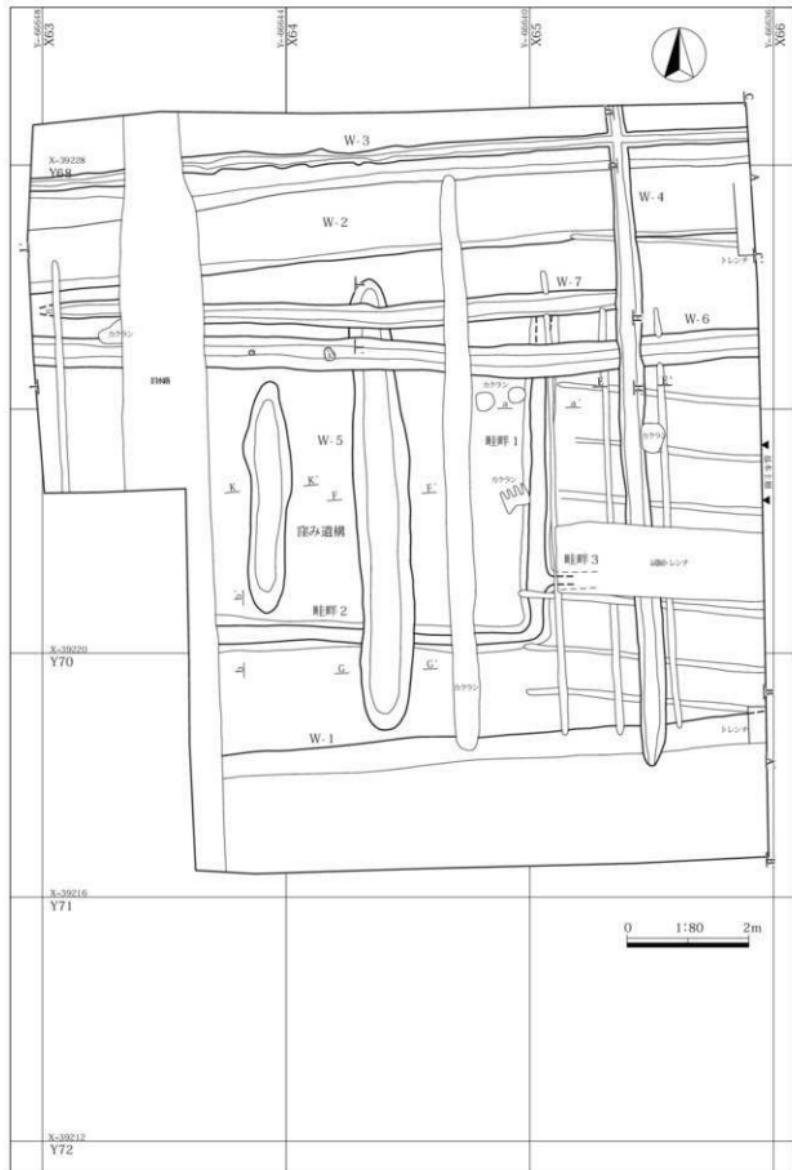
**位置：**調査区中央部で一部検出された。**重複：**W-4号溝を切っている。また西壁のセクションJ-J'ではW-2、6

号溝を切っている。形態：東西方向に走行し、断面形は浅いU字状を呈する。埋没状態：灰黄褐色土により埋没している。計測値：主軸方位 N-89°-E、検出長 11.64m、検出幅 0.40m、確認面からの深さ 0.05m。遺物：出土なし。時期：覆土は W-1 ~ 6 号溝に比べると As-B の混入はやや希薄となっている。このことから中世～近世以降と推測される。

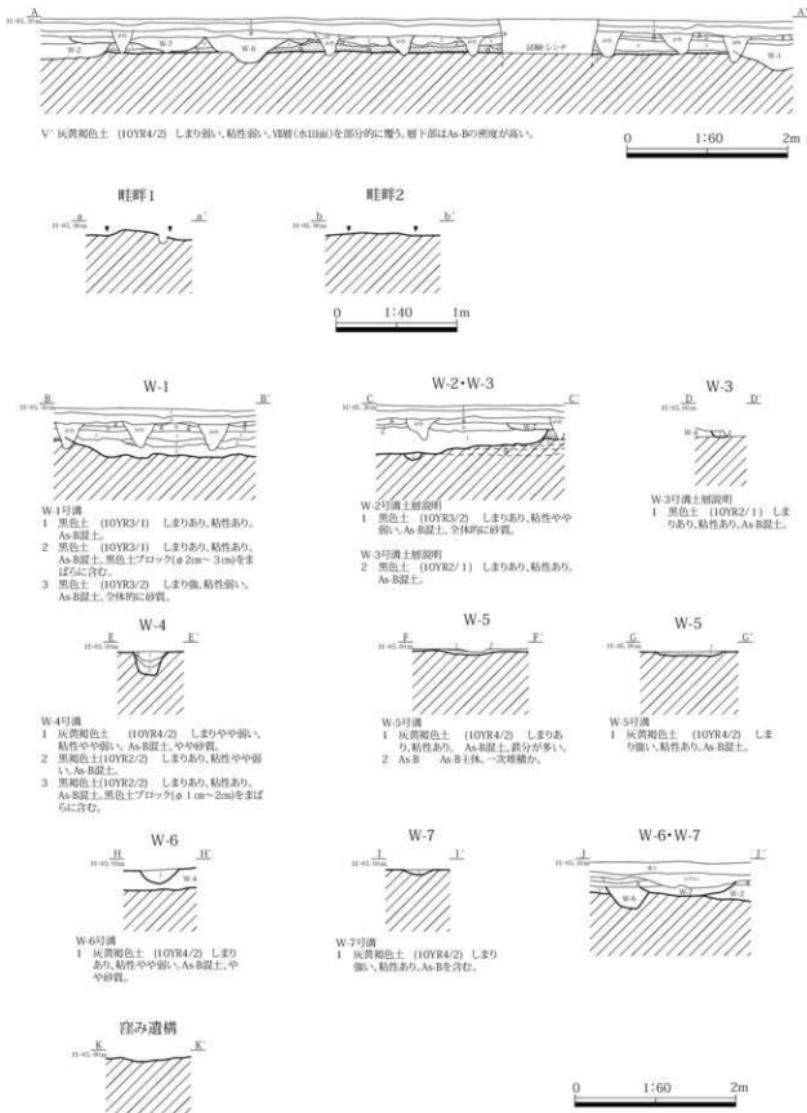
#### 4 その他の遺構

##### 窪み遺構（第 5・6 図、PL. 3）

位置：調査区東部で検出された。重複：なし。形態：南北方向に走行し、わずかに窪んでいる。計測値：主軸方位 N-1°-E、検出長 3.80m、最大幅 0.80m、確認面からの深さ 0.05m。埋没状態：As-B 一次堆積層が主体。遺物：出土なし。時期：この遺構は As-B 下水田検出のため、軽石除去した段階で窪み状の遺構となった。このため、単独であれば As-B 降下以前に形成された遺構とも考えられるが、東にある W-5 号溝と並走し、埋没状況、断面形状が似ていることから、同時期の遺構と考えられる。なお、本遺構も W-5 号溝と同様に造成以前の農道部にあたり、2 基の遺構はワダチなど、上層からの影響による沈下の可能性も考えられる。



第5図 遺跡全体図



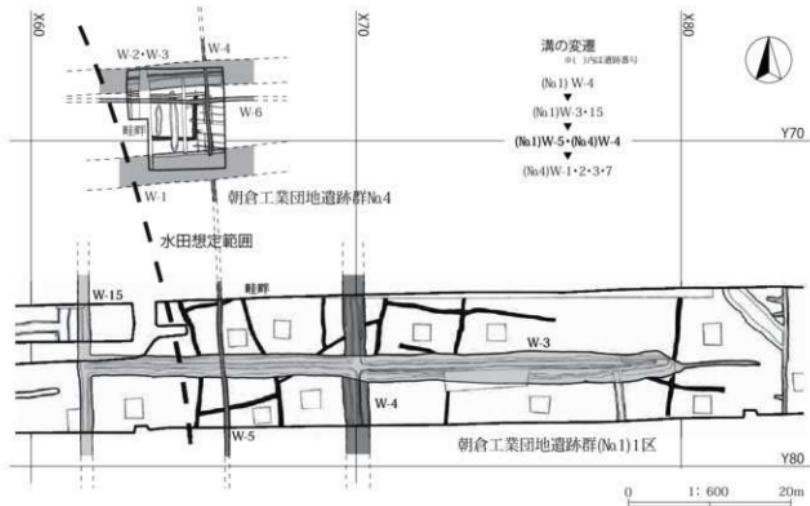
第6図 As-B下水田跡、溝、窪み遺構

## VI まとめ

朝倉工業団地遺跡群No.4（以下No.4とする）の調査は前橋市教育委員会の試掘により検出されたAs-B下水田の記録保存が主な目的であった。この結果As-B下水田は近現代の水路や、耕作機械による痕跡、または、As-B軽石降下後の溝などに切られているものの、調査区のほぼ全面で検出することができた。本調査区は朝倉工業団地遺跡群（以下No.1とする）の1区で検出されたAs-B下水田西端部の北に位置している。このことから、No.1の1区で検出されたAs-B下水田の範囲は本調査区を含み北西方向に広がりがあるものと考えられる。

As-B下水田とともに検出できたのはAs-B混土を覆土とする溝である。今回は5条の溝がこれに該当し、As-B降下後に掘削された遺構である。溝はそれぞれ、若干のぶれはあるが南北軸や東西軸を基本としている。南北軸の溝はW-4号溝で今回検出できた溝の中では最も古い。またこの溝はNo.1の1区で検出されているW-5号溝と規模や走行方向から同一の溝である可能性が高い。東西軸の溝はW-1、2、3、6号溝でそれぞれW-4号溝より新しい。現段階では東西方向での調査が行われていないことから、これらの延長を捉えることはできなかった。なお、本調査区の南に位置するNo.1の1区でも南北および東西の軸をもつ溝が検出されている。主なものとしてはW-3、4、5、15号溝が該当する。No.4で検出された溝を含め、これらの溝は時期差があり存在したものである。まずNo.1の1区W-4号溝がもっとも古く、同区W-3号溝に切られる。W-3号溝はNo.1の1区W-5号溝および同一と想定されるNo.4 W-4号溝に切られる。No.4ではW-4号溝がもっとも古く、東西軸の溝はこれを切っている。No.1とNo.4で検出された南北および東西に軸をもつ溝群は方形の区画を形成するものではなく、数時期にわたって掘削された溝である。

以上、朝倉工業団地遺跡群No.4で検出された遺構について、先行する調査の結果と総合して検討を行った。本調査区は174m<sup>2</sup>と小規模であるため、調査区内では遺構の広がりを把握することはできない。今後の周辺部の調査を踏まえ改めて検討する必要がある。



第7図 近隣調査区との検討図

## 参考文献

- 前橋市教育委員会 2012 「朝倉工業団地道路群№3」  
前橋市教育委員会 2012 「朝倉工業団地道路群」  
前橋市教育委員会 2011 「南部拠点地区道路群№6」  
前橋市教育委員会 2010 「南部拠点地区道路群№5」  
前橋市教育委員会 2010 「南部拠点地区道路群№4」  
前橋市理藏文化財発掘調査団 2010 「南部拠点地区道路群№3」  
前橋市理藏文化財発掘調査団 2009 「南部拠点地区道路群№2」  
前橋市理藏文化財発掘調査団 1997 「南部拠点地区道路群№1」  
前橋市教育委員会 2006 「文京町№1跡群」  
前橋市理藏文化財発掘調査団 2003 「上佐島中原前II遺跡」  
前橋市理藏文化財発掘調査団 1999 「上佐島中原前遺跡」  
前橋市理藏文化財発掘調査団 1997 「宮地町中遺跡」  
群馬県教育委員会 1997 「梯島川端遺跡・公田東遺跡・公田池尻遺跡」  
前橋市教育委員会 1986 「勝呂遺跡」  
群馬県教育委員会 1983 「須摩野遺跡・下佐島遺跡・宿阿内城跡」  
群馬県教育委員会 1982 「川曲遺跡・東公田古墳」  
群馬県史編さん委員会 1990 『群馬県史通史編』第1巻

# 写 真 図 版



調査区遠景（南西から）＊奥の調査区は朝倉工業団地遺跡群No.2



調査区全景（東から）



基本断面



畦畔全景(南から)



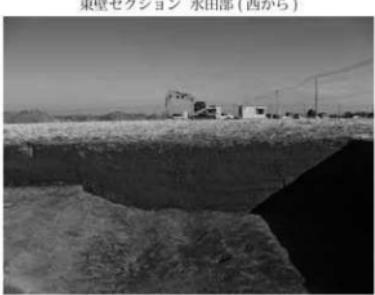
畦畔1全景(南から)



東壁セクション 水田部(西から)



W-1号溝 全景(東から)



W-1号溝セクション(西から)



W-2・W-3号溝全景(東から)



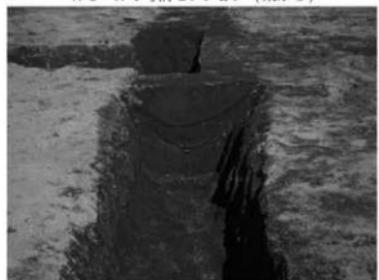
W-2・W-3号溝セクション(西から)



W-3・W-4号溝セクション（東から）



W-4号溝全景（南から）



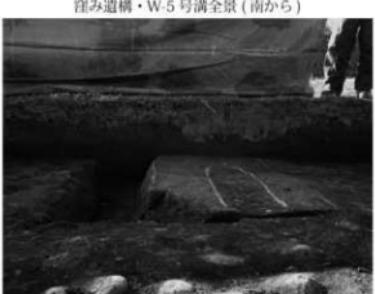
W-4号溝セクション（南から）



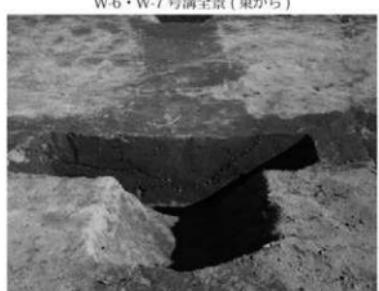
埋み遺構・W-5号溝全景（南から）



W-6・W-7号溝全景（東から）



W-6・W-7号溝セクション（東から）



W-6号溝セクション（西から）



W-7号溝セクション（西から）

## 抄 錄

フリガナ	アサ克拉コウギヨウダンチセキダンナンバー4
書名	朝倉工業団地遺跡群No.4
副書名	株式会社ヤマト第3工場建設に伴う埋蔵文化発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	福田貢之 青木利文 大谷正芳
編集機関	山下工業株式会社 〒371-0244 群馬県前橋市鼻毛石町207-8 TEL 027-283-7111
発行機関	前橋市教育委員会 文化財保護課 〒371-0018 群馬県前橋市三保町2-10-2 TEL 027-231-9531
発行年月日	西暦2013年3月22日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	道路	北 緯	東 経			
アサクラコウギヨウダンチ 朝倉工業団地 遺跡群No.4	ランマラン マスハレシ 群馬県前橋市 シモサトリマチ 下佐島町 2-3, 3-1, 3-7, 3-8, 4-2, 5-2, 6, 7-1, 7-3, 8-1, 9-1, 9-2, 11-1, 11-2, 12-1, 13-1, 14-1, 15-1, 16-1, 19-1, 21-1, 22-1, 22-2, 23, 24-1, 24-2, 26-1, 26-2, 27-2, 27-4, 27-5, 28-4, 28-5, 33-2, 216, 201-1	10201	00805	36° 21' 04"	139° 05' 27"	20130125 ～ 20130203	174m <sup>2</sup>	工場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
朝倉工業団地 遺跡群No.4	生産跡	古代 古代以降	As-B下水田 溝 窪み遺構	土師器 7条 須恵器 1基	

朝倉工業団地遺跡群No.4  
株式会社ヤマト第3工場建設に伴う  
埋蔵文化発掘調査報告書

---

2013年3月13日 印刷

2013年3月22日 発行

発 行 前橋市教育委員会  
前橋市三保町 2-10-2

編 集 山下工業株式会社  
前橋市鼻毛石町 207-8

印 刷 朝日印刷工業株式会社

---